

2019年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立いなみ野特別支援学校

単元名

バリ取り（コップ作り）をやってみよう。

指導目標

高等学校の生徒と作業を通じた交流をする中で経験を広め、お互いを理解し合い、社会性及豊かな人間性を育む。

生徒の実態

高1・2年の軽度・中度知的障害の生徒である。手先が不器用な生徒、長時間集中し続けることが難しい生徒、抽象的な作業内容や口頭指示だけでは取り組むのが難しい生徒などがある。

事前学習

県立農業高校の生徒は陶芸を体験したことがないため、バリ取り作業のコツをどのように伝えればわかりやすいかを考え、実際に生徒同士で教え合う。

学習活動（具体的な取組）

- 陶芸の製作方法（たたら成型・鑄込み成型）の説明を聞く。
- コップのバリ取り体験する。
- 釉薬を選び、メモ用紙に記録する。
- 皿作り（たたら成型）の実演をする。
- 型を使わずに皿の形に切り取る手法に挑戦する。
- 感想発表

支援と留意点

- 型や粘土など具体物を提示する。
- 1対1のペアになるとともに、各グループにリーダーを置き、困った点はグループで解決する。
- 色見本を提示する。
- フォーマットを用いて、感じたことを入れる。

評価

県立農業高校で開催された交流を終えてからの本校開催の交流であったため、お互いに非常に和やかな雰囲気の中で行うことができた。県立農業高校の生徒も今回の交流を大変楽しみにしてくれていたという発言も見られ、本校生徒も嬉しそうにしていた。

本校生徒にとって人に何かを教えるという経験は少なく、事前学習から普段行っている作業をどのようにすればうまく伝わるのかを考え抜き、生き生きとした表情で行っていた。非常に貴重な経験であった。

活動の様子



本校生徒（緑のジャージ）が県立農業高校の生徒にバリ取りを教えている様子



本校生徒2名（緑のジャージと白のTシャツ）が皿作りの実演をしている様子

事後学習

それぞれのペアやグループで①良かったところ、②こうしたら良かったと思うところを話し合い発表する。②は事前学習で考えた伝え方を中心に振り返る。

また、バリ取りの済んだコップを磨き、釉薬をつけ、梱包にメッセージを添えて届ける。責任を持って完成品にして届けることを学習する。

成果と課題

陶芸班と県立農業高校造園科との交流はそれぞれの専門が異なるため、本校での交流では県立農業高校の生徒にとって初めて体験する内容となった。そのため、本校生徒が普段行っている作業を教えたり、実演を披露したりする機会を得ることができ、そのような機会の少ない本校生徒にとって貴重な体験であった。このようなことから、高等学校と特別支援学校の交流において、必ずしも類似した作業内容でペアリングすることはせず、あえて異なる作業内容でペアリングすることでそれぞれの学校の生徒にとって普段の学習の成果を発揮できる活躍の機会が与えられるのではないかと考える。